

ラグビーワールドカップ2019

～熊谷から世界に発信！～

特集① 「ラグビータウン熊谷」で夢のラグビーワールドカップ開催

熊谷市ラグビーワールドカップ2019推進室 室長 島村 英昭さん

招致活動から始まり、ラグビーワールドカップに携わり早いもので8年になります。県と市が二人三脚で取り組みながら、2018年10月には「熊谷ラグビー場」改修後のこけら落としも無事終わり、開催まで半年を切りました。9月6日の日本代表と南アフリカ代表の強化試合を含めると、4試合の開催が迫っています。日本対南アと言えば4年前、日本が劇的勝利を収めた好カード、コアなファンだけでなく、日本中のファンの注目も高まっています。皆さんにもぜひ応援していただきたいです！

熊谷は東京から38分、都内からのアクセスが良いのが特徴です。熊谷駅からラグビー場までは3.5km、近いとはいえないが、駅からまっすぐの気持ちのいい道のりです。この道路は、大会後もラグビーファンのみならず、市民の皆さんにも親しんでもらいたいという願いを込め「ラグビーロード」と命名しました。ラグビーロードの街灯を増やし、ナイター試合の際も安全に歩ける道を整備しました。駅前広場の整備も進めており、大会中はファンゾーンを開設して、観戦チケットのない方達も一緒に盛り上がれる場所を作ります。

熊谷市は「ラグビータウン熊谷」を掲げ、ラグビーによるまちづくりを平成3年から継続して進めています。県北地域にはラグビーに携わる方が多く、熊谷工業高校、深谷高校など全国でもトップクラスの強豪校があり、中学校でもラグビー部が5校もあります。ラグビーワールドカップ開催の認知度も熊谷市は8割超えと突出して高く、市民の皆さんがラグビーワールドカップの開催を心待ちにしていることがわかります。熊谷市内の小中学生は全員「ラグビーワールドカップ・ジュニアソポーター」に任命されました。ラグビーや参加国についての学習に取り組み、その国の料理に給食で親しみながら、小中学生からの認知度の向上、おもてなしの機運の醸成を図っています。大会期間中は選手や大会関係者、観光客も含め、熊谷を多くの外国人が訪れることが予想され、世界に興味を持つ第一歩となるような経験につながればと思います。また、ラグビーに自然に親しむことができる「タグラグビー」が小中学生に人気で、市内の小学校では授業の一環として学んでいます。5人1チームと一緒に走っていく鬼ごっこのようなゲームで、協調性や一体感が生まれ、ラグビーを身近に感じることができます。ラグビーを一つのきっかけとして、世界に目を向ける青少年の育成につなげていきたいと思います。

「東の聖地」と呼ばれる熊谷で開催されるラグビーワールドカップ。大会中はもちろんのこと、大会終了後もラグビーの聖地、ワールドカップのレガシーとして、日本のみならず世界中から愛される場所にしていきたいと思います。



タグラグビーを楽しむ小学生たち

特集② 熊谷の魅力を世界に発信！

(一社) 熊谷市観光協会 時田 隆佑さん、湯本 彩さん



フランス人に妻沼聖天山をガイド

ラグビーワールドカップは試合と試合の間隔が長く、外国人観光客の滞在が長くなる傾向があります。熊谷市観光協会では、観戦で訪れた前後の時間はもちろん、試合がない日にもう一度、熊谷に来ていただきたいと思っています。そのために、まず「熊谷らしさ」や「ロングライフデザイン」をテーマに、地域らしさを伝えるものや、これからも残していくものを中心に紹介する、熊谷市の観光情報誌「design travel WORKSHOP 熊谷号」を作成しました。作成にあたっては、市民からライターを募り、半年間にわたりワークショップを重ね、2018年に完成しました。この活動をきっかけに、市民ライターたちが生活の中で熊谷を改めて見直し、今後の街づくりも意

識して様々なイベントに参加するようになり、自発的なコミュニティが広がってきています。また、昨年から市民ガイドの育成やガイドコミュニティ形成のノウハウを持つ株式会社Huber.と連携し、「Tomodachi Guide」の取り組みを始めました。地元で活躍するローカルガイド50人の育成を目指し、現在研修の真っ最中です。「英語で話したい」、「ワールドカップに携わりたい」など、動機も様々な大学生から70歳代までの幅広い世代が集まり、熊谷を案内するプラン作成に取り掛かりました。この「Tomodachi Guide」とは、ローカルガイドがお勧めするガイドプランと、訪日外国人が日本でどんな旅をしたいかのアンケート結果を基に、web上でローカルガイドと観光客をマッチングするシステムです。前回のワークショップでは、留学生や在住外国人に観光客を演じてもらい、テストガイドを実施しました。実際のガイドを体験し、外国人目線による改善点などの意見もいただき、今後に向け良い経験となりました。自分の家でお茶をしたり、家庭料理と一緒に作ったりと、観光ガイドというよりは遠方から来た友達を連れて一緒に遊ぶようなラフさが魅力です。ラグビーワールドカップで訪れる外国人観光客に利用してもらい、熊谷を訪れ、熊谷を好きになってほしいです。

外国人に人気のスポットの一つに熊谷桜堤があり、毎年多くの外国人観光客が訪れています。実はその観光客が何をきっかけとして、熊谷を訪れているかまったくわかりません。しかし、Tomodachi Guideを始めることで、どこで熊谷を知り、熊谷のどういう所が好まれ、何を目的に訪れているのか、いろいろな情報を吸い上げ、今後の街づくりや情報発信につなげていきたいと思っています。

さらに、キーとなる人の育成とコミュニティづくりを図り、市民自らが発信することでワールドカップ終了後も街づくりの活動の幅を広げていければと思います。ワールドカップを機会に、地元の魅力を再発見し、日本だけにとどまらず世界にも発信していかなければと思っています。

特集③ 「おもてなしは熊谷」を目指して

熊谷市国際交流協会 新井 美智栄さん



パナソニックワイルドナイトの選手たちと
ラグビー勉強会

熊谷市国際交流協会では、ラグビーワールドカップの熊谷開催決定後、ラグビー勉強会、熊谷での試合国についての文化講座などを数多く開催してきました。ラグビー勉強会ではラグビートップリーグのパナソニックワイルドナイトの選手などを招き、競技としてのラグビーの理解を深め、英語やスペイン語の「おもてなし超入門語学講座」では、簡単ですがフレーズを会員の皆様と共に学習してきました。どの講座も大盛況で、募集人数を超える参加があることも多く、市民の方々の関心の高さがわかります。当協会の法人・個人会員数は700を超え、もともと国際交流に興味がある方が多く、語学講座や世界の文化を知るために講座なども以前から行っていました。今は、ラグビーワールドカップに特化した講座を集中的に開き、大会開催時に市民自らが興味を持ち、参加できることを目指しています。ラグビーの理解を深めた上で話しかけることで、訪れた外国人の満足度も上がると予想され、駅や街中で外国人を見かけたら、尻込みしないで話しかけられるようになればと思っています。何語でもいいので、目が合えば笑顔で声をかけられるようになれば、熊谷を訪れた外国人にも良い印象を持ち帰ってもらえると考えています。ラグビーワールドカップやオリンピック開催時だけに限らず、今後熊谷に訪れるすべての観光客が、「来てよかった」と楽しい気持ちで帰っていただくためには、観光地やお土産物よりも、人がどのように接したかが重要です。市民の「おもてなしの心」の準備を進め、「ラグビータウン熊谷」に加え、「おもてなしは熊谷」と言わることを目指しています。4月以降も、試合国であるウルグアイを知るための文化講座、スペイン語のおもてなし入門講座を予定しています。興味のある方はぜひご参加いただき、一緒におもてなしをしましょう！



「ジョージアを知ろう」講座で
ジョージアワインを楽しむ参加者